学校教育・学校生活はどう変わる？

桑名市の計画では、従来の小学校＋中学校から、小１から中３までが同じ校舎で学ぶ、施設一体型の小中一貫校「義務教育学校」へ再編する方針です。

１.「義務教育学校」とは？



比較項目	従来の小学校＋中学校	義務教育学校
修業年数	小学校6年　→　中学校3年	**９年間で１つの学校**
組織	校長２人 小中学校でそれぞれの教職員組織	校長１人 １つの教職員組織
区切り	６–３制 **小学校卒業 → 中学校入学**	４–３–２制、５–４制など 柔軟な区切りが可能
施設・行事	校舎・生活・学校行事は小中で別	小１～中3段階の子が同じ校舎で生活 合同行事も可能
教員免許	小学校教諭免許、 中学校教諭免許（教科別）	原則、小学校と中学校の 両方の免許が必要※
学校数	**28,434校**	**261校** **全国の小中学校数に対する割合は約0.9%**

※当分の間、担当する課程に対応する免許状だけでも勤務できる経過措置があります。

２. 小学生と中学生の違い

比較項目	小学生	中学生
発達段階	心身の基礎をつくる児童期	思春期を迎え、自立に向かう青年期
学び方	学級担任を中心に、生活や体験と 結びつけて学ぶ	教科ごとの専門教員から学ぶ
学校生活	遊び・休み時間・当番や係なども重要	定期考査・生徒会・部活動などが加わる
教員の専門性	生活全体を見守り、多くの教科を担当	教科ごとの専門性を生かして指導
学校教育法による分類	初等教育 児童	中等教育（中学校・高校） 生徒

出典：桑名市「桑名市立小中学校再編計画」（令和8年3月）、文部科学省「令和7年度学校基本統計」

子どもの通学はどう変わる？

アンケートでは、小学生の通学について、市民・小学生保護者・教職員のいずれも、「30分以内」「2km以内」「徒歩」の割合が最も高くなっています。

1. 小学生の通学に関するアンケート結果

通学時間の許容範囲 ※　　単位：%

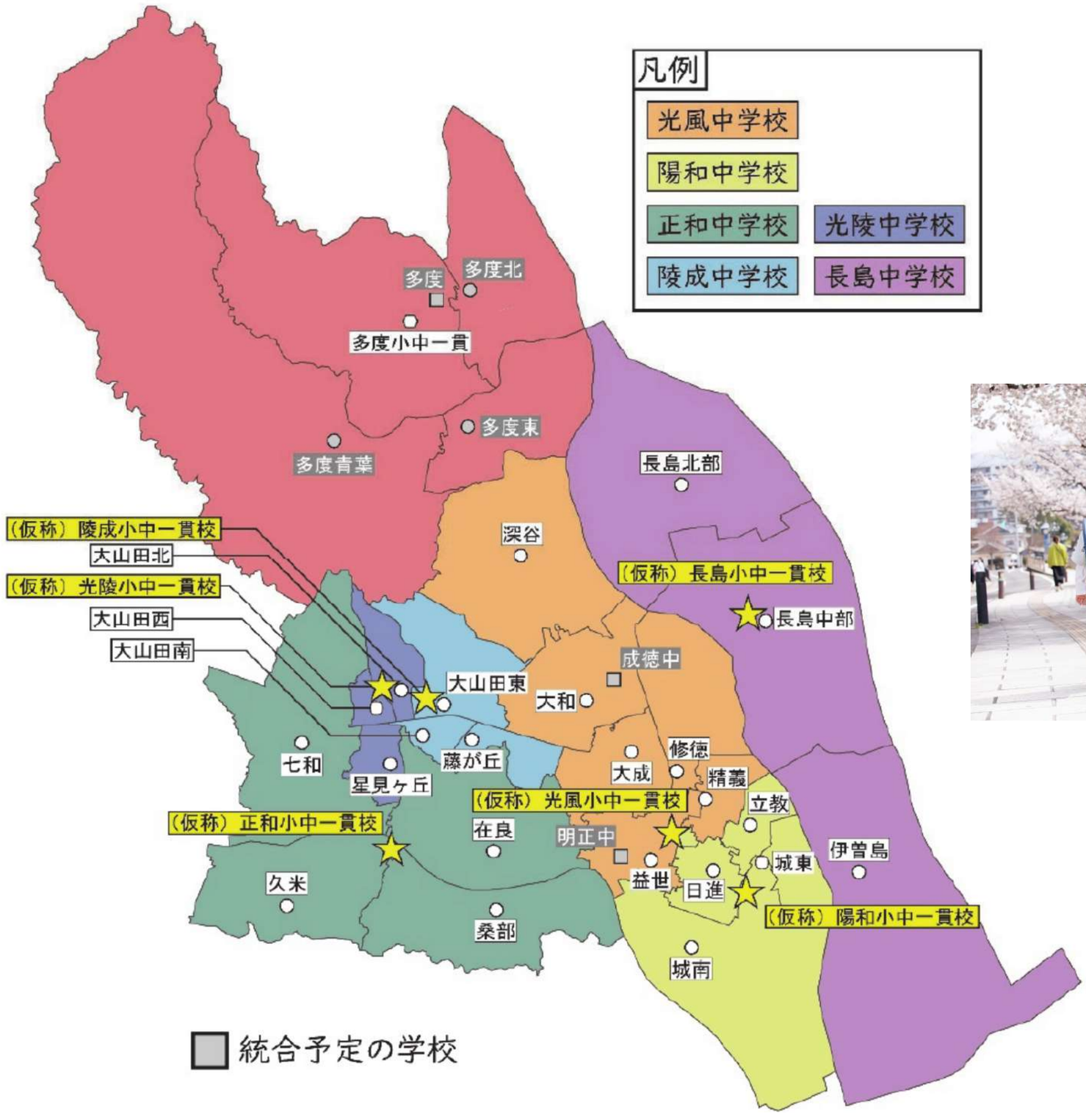
回答者	15分以内	30分以内	45分以内
市民	22.4	63.8	8.9
小学生保護者	15.7	67.3	12.3
教職員	11.9	72.4	13.0

通学可能距離の許容範囲 ※　　単位：%

回答者	1km以内	2km以内	3km以内
市民	22.4	63.8	8.9
小学生保護者	15.7	67.3	12.3
教職員	8.8	50.0	25.5

※通学時間について、割合の少ない「60分以内」「時間は問わない」「無回答」を省略。
　通学可能距離について、割合の少ない「4km以内」「距離は問わない」「無回答」を省略。

2. 再編計画の学校配置





小学生は分速40mで30分歩くと約1.2km進むよ



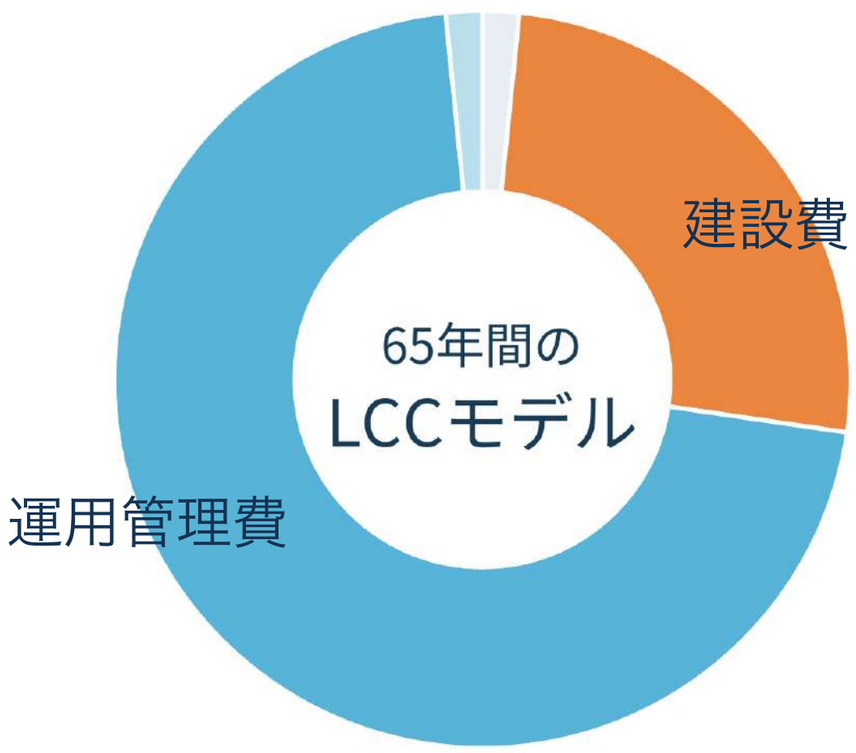
出典：桑名市「桑名市立小中学校再編計画」（令和8年3月）、桑名市「桑名市立小中学校に関するアンケート調査」（令和5年3月）

費用や財政負担はどう変わる？

学校を集約して新設した方が費用が安くなるとは限りません。比較に必要な、
再編した場合の生涯費用 (建設・維持管理・解体等) は、まだ示されていません。

１. 建設費は、建物にかかる生涯費用の一部

文科省の掲載モデルでは、建設費は生涯費用（LCC）全体の約４分の１です。
全体の約７割を、保全・修繕・改善・光熱費などの運用管理費が占めています。



企画設計費	1.6%
建設費	**25.7**%
運用管理費	**71.1**%
解体・再利用費	1.6%

※中規模事務所建築物の65年間モデルであり、学校施設の
費用を試算したものではありません。

２. 費用はいくらかかる見込み？

① 現在の学校を残した場合

長寿命化・平準化したモデル

年平均 **20.4億**円

45年で約919億円※

※令和2年度時点で行われた、学校施設を
長寿命化・平準化した場合の試算。

② 再編計画の建設関連費

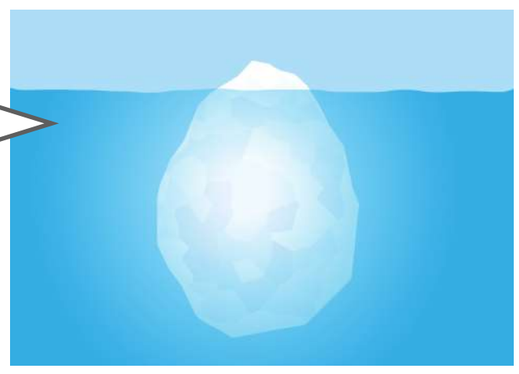
多度学園の整備に要した

総事業費 **92億**円※

さらに**6校**新設予定

※多度学園の整備に要した総事業費であり、
今後の長期的な維持管理費などは含みません。

建物のLCCから見ると、建設関連費はあくまで氷山の一角



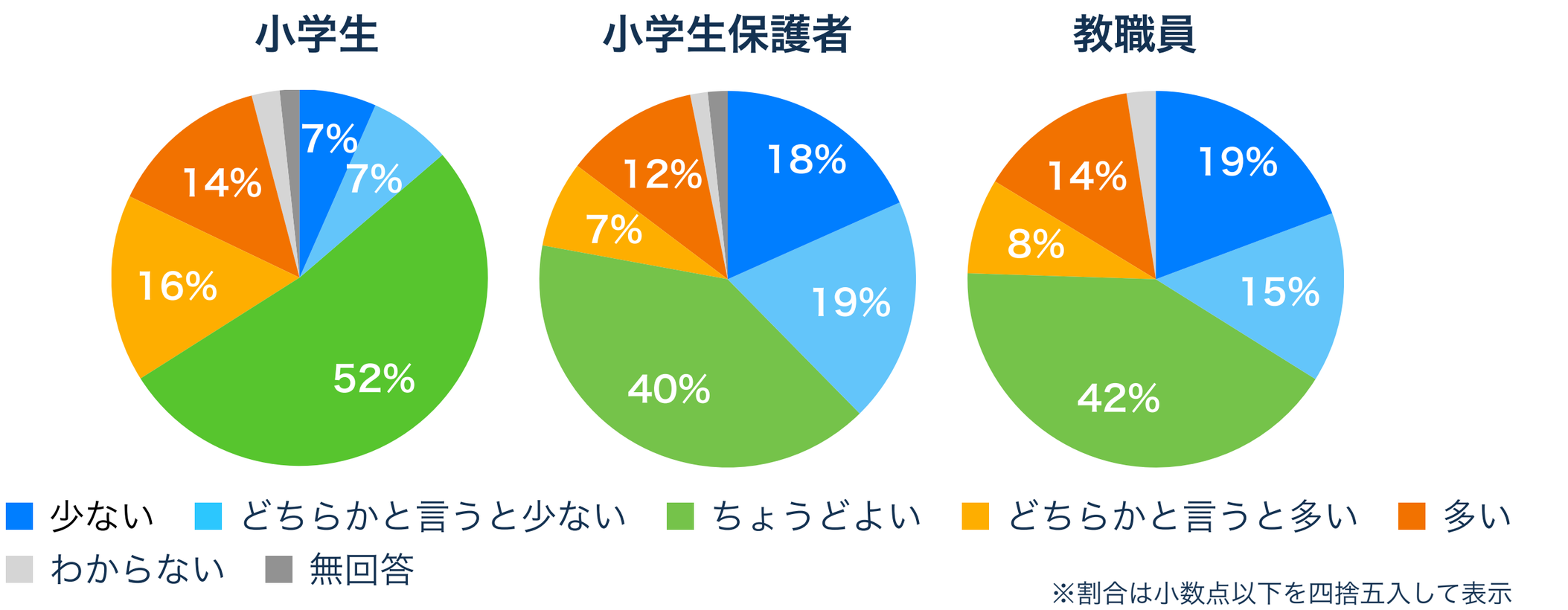
出典：文部科学省「学校施設の現状について 資料4」（平成24年4月）、桑名市「学校施設適正管理計画」（令和3年3月）、
「桑名市議会だより 第39号」（令和8年6月）

子どもや保護者の声は？

アンケートでは、現在通っている学校について、児童数「ちょうどよい」、学級数「ちょうどよい／適正」が最も多くなっています。

1. 小学校の児童数

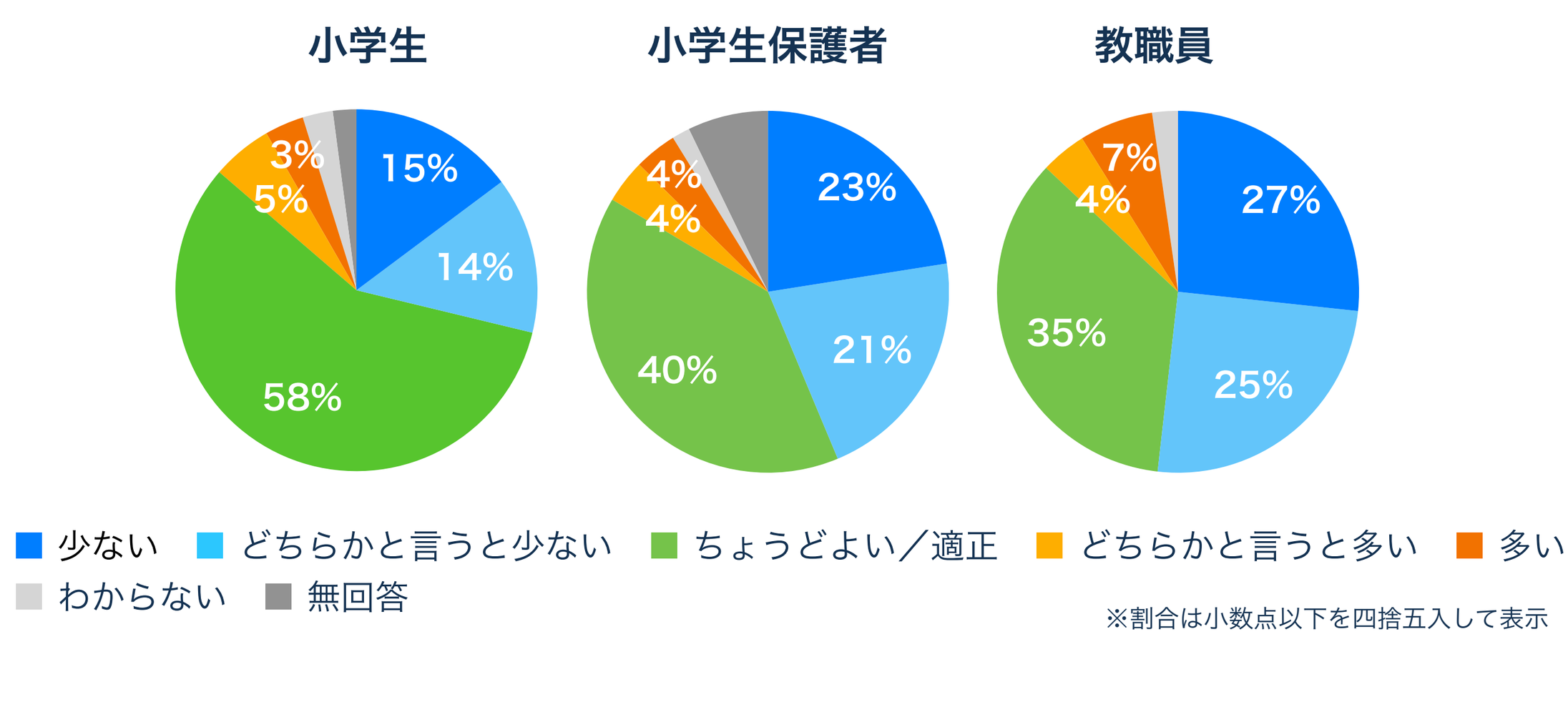
学校規模により回答の傾向に違いがあるものの、全体的には「ちょうどよい」の割合が高い。



※割合は小数点以下を四捨五入して表示

2. 小学校の学級数

小学生の保護者と教職員では「少ない」「どちらかと言うと少ない」の割合が高めなものの、全体的には「ちょうどよい／適正」の回答が最も多い。



※割合は小数点以下を四捨五入して表示

出典：桑名市「桑名市立小中学校に関するアンケート調査」（令和5年3月）

写真で見る、通学路と雨漏り

1. 多度学園の通学路

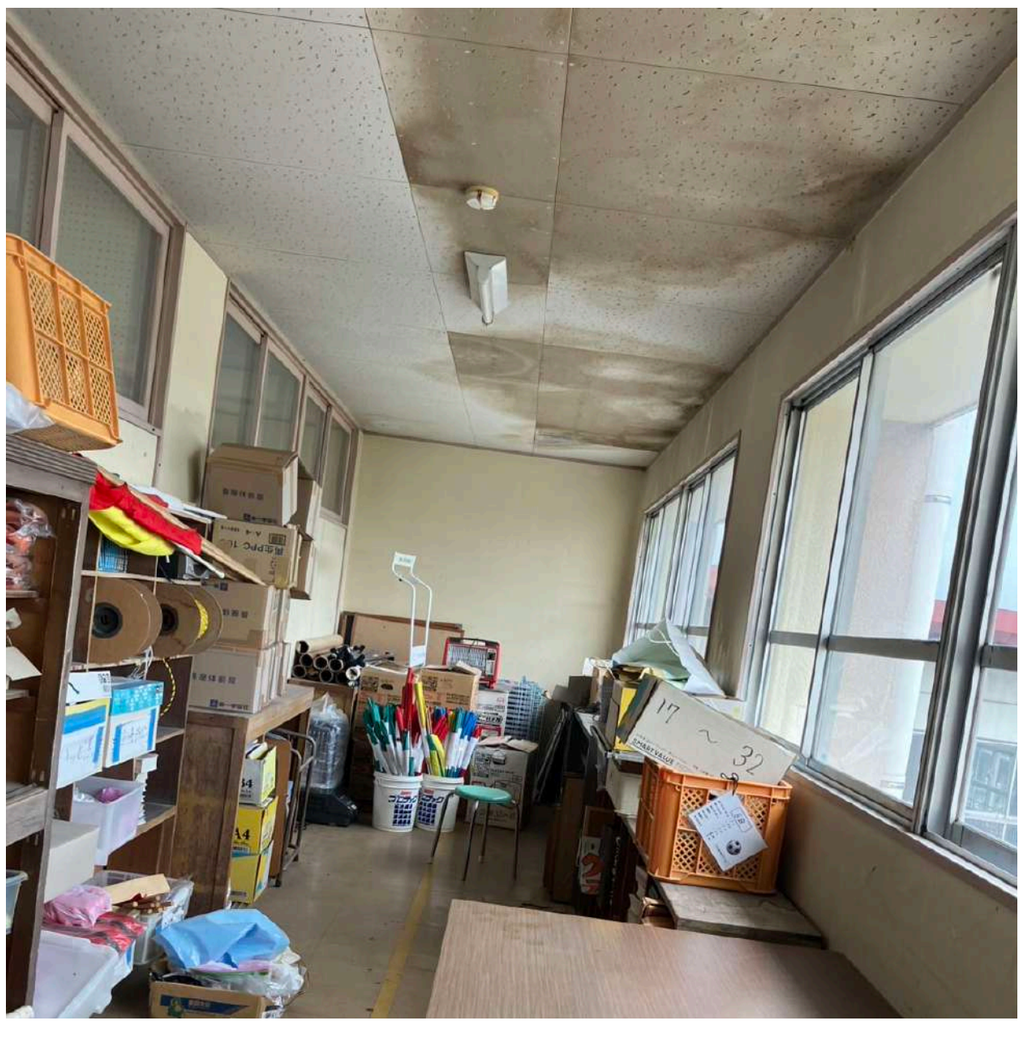
通学路の安全対策には、道路管理者である国・県・市や、警察などとの連携が必要です。低学年の子どもたちが、安全に通学できるか、事前に十分な検討が求められます。





2. 桑部小の雨漏り

雨漏りや施設の安全対策、和式トイレの改修、特別教室などへのエアコン設置などは、学校再編とは別に、早急な対応が必要です。





学校再編の他の選択肢は？

少子化や校舎の老朽化への対応には、さまざまな手法があります。文科省も、
地域の実情を踏まえて学校の適正規模・配置を検討することを求めています。

1. 学校再編の５つの選択肢

①大規模な小中一貫校



複数の小学校と中学校を、1つの小中一貫校に統合

②小学校同士の統廃合



近隣の複数の小学校を、1つの小学校に統合

③公共施設の複合化



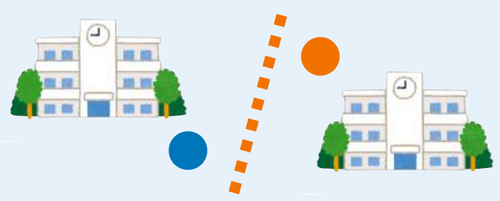
学童・子ども園・避難所
などと学校の複合化

④長寿命化・減築



校舎を改修し、児童数に
合わせて小さく長く使う

⑤学区の見直し



新入生から段階的に学区
を変更。兄弟に配慮。

2. 手法による変化・調整・影響の大きさ

評価項目	大規模小中一貫校	小学校統合	複合化	長寿命化・減築	学区見直し
通学	大	中〜大	小	小	小〜中
学校規模	大	中	小	小	中
心理的負担	大	中	小〜中	小	小
学校生活	大	小	小〜中	小	小
地域	大	中〜大	中	小	中
防災・避難所	大	中〜大	小〜中	小〜中	小〜中
財政	大	中	中	中	小
先生・学校運営	大	中	小〜中	小	小
合意形成	大	中〜大	中	小〜中	中

※「大」＝悪い、という意味ではありません。変わる範囲や調整事項、影響が大きく、
より慎重な検証と丁寧な合意形成が必要であることを示しています。

出典：文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（平成27年）、同「学校施設と他の公共施設等との複合化検討部会 報告書」（平成27年）等をもとに、桑名の子どもと学校を守る会が整理

学校の規模はどう変わる？

学校ごとに児童生徒数は大きな差があります。
再編計画によると、1,000人超えの学校も誕生する見込みです。

1. 現在の小学校の児童数と学級数

学校名	児童数	学級数
日進小	207人	9
精義小	151人	6
立教小	120人	6
城東小	43人	5
益世小	373人	14
修徳小	246人	9
大成小	423人	15
桑部小	175人	6

学校名	児童数	学級数
在良小	317人	12
七和小	274人	12
久米小	221人	11
深谷小	101人	6
城南小	327人	12
大和小	93人	6
大山田東小	666人	23
大山田北小	392人	14

学校名	児童数	学級数
大山田西小	74人	6
大山田南小	284人	11
藤が丘小	302人	12
星見ヶ丘小	222人	9
長島北部小	91人	6
長島中部小	286人	12
伊曽島小	109人	6
多度学園	431人	15

※児童数と学級数は通常学級数のみを記載。多度学園は1〜6年生の児童数・通常学級数を記載。

2. 再編後の児童生徒数の推計

再編後の学校仮称	学区割構成	R15年度	R25年度
光風小中一貫校	精義小、益世小、修徳小、大成小、深谷小、大和小	**2,234人**	**1,721人**
陽和小中一貫校	日進小、立教小、城東小、城南小	**1,151人**	**958人**
正和小中一貫校	桑部小、在良小、七和小、久米小	**1,462人**	**1,250人**
陵成小中一貫校	大山田東小、大山田南小、藤が丘小	**1,562人**	**1,223人**
光陵小中一貫校	大山田北小、大山田西小、星見ヶ丘小	**889人**	**831人**
長島小中一貫校	長島北部小、長島中部小、伊曽島小	**627人**	**647人**

※児童生徒数が1,000人超えの公立小中学校は、27,539校中229校で、全体の**約0.83%**です。
※文科省は、31学級以上の「過大規模校」は課題が出やすいため、速やかな解消を求めています。

出典：桑名市「児童・生徒数一覧」（令和8年5月1日）、桑名市「桑名市立小中学校再編計画」（令和8年3月）、文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（平成27年1月）、文部科学省「学校基本調査（小学校／中学校）」（令和6年度）

今の学校の老朽化状況は？

学校施設の古さや劣化状況は、学校ごと、施設ごとに異なります。
桑名市では、施設の適正な維持管理によって80年の使用を目標としています。

１. 小学校　２３校

学校名	主要棟の築年数	D評価の部位
日進小	36～64年	
精義小	61～65年	内部仕上
立教小	37～59年	
城東小	32～38年	
益世小	55～60年	
修徳小	23～58年	
大成小	39～63年	
桑部小	47～52年	機械設備
在良小	48～56年	
七和小	35～55年	
久米小	28～55年	
深谷小	36～56年	屋根・屋上 内部仕上

学校名	主要棟の築年数	D評価の部位
城南小	47～64年	外壁／内部仕上 ／機械設備
大和小	54～56年	
大山田東小	9～48年	
大山田北小	12～45年	屋根・屋上 外壁
大山田西小	35～42年	屋根・屋上
大山田南小	36年	
藤が丘小	32年	
星見ヶ丘小	26年	屋根・屋上
長島北部小	44～49年	
長島中部小	45～57年	
伊曽島小	33～48年	

※劣化評価（2020年基準）：A＝概ね良好、B＝部分的に劣化、C＝広範囲に劣化、D＝早急な対応が必要。対象施設206棟のうち、74棟（36%）はすべての部位がA・B評価、132棟（64%）はいずれかの部位にC・D評価があります。

※築年数の幅は、校舎・体育館のうち500m²を超える主要塔について、2026年から建築年を差し引いて算出。D評価の部位は、資料に掲載された各学校の建物全体から集約。空白はD評価なし。

※多度学園への統合により廃校となった旧多度地区の４小学校は掲載していません。

出典：桑名市「学校施設適正管理計画」（令和3年3月）